

宮城県野生植物分布図集 [電子版] 凡例

1. 本分布図集は、『宮城県植物誌』（宮城県植物誌編集委員会 2017）の姉妹編である。この作成の経過は、2017～2020 年については「宮城県植物誌分布図編 作成活動の歩み（元世話係 2021）」に記し、2021～2024 年については今後、会誌『宮城の植物』に記録する予定である。
2. 本分布図集は、『宮城県野生植物目録 2022』（宮城県野生植物目録編集チーム 2022）及び『宮城県野生植物目録 2022 補遺』（上野他 2023）に収録された蘚苔（コケ）植物と維管束植物すべてについて、公的な標本室に収蔵されている標本に基づいて作成した。

本ホームページにある宮城県野生植物目録 2022[電子版]（宮城県野生植物目録編集チーム（編）2023）から各分布図へリンクを作成したが、前記『宮城県野生植物目録 2022 補遺』で削除された分類群の分布図はない。また広義とされる分類群については一部を除き分布図は作成していない。
3. 各分布図は、『宮城県植物誌』で作成し『宮城県野生植物目録 2022』で修整した宮城県野生植物目録編集のための地域区分図（Ⅰ 奥羽山脈区、Ⅱ 仙台平野区、Ⅲ 北上山地区、Ⅳ 阿武隈山地区、Ⅴ 島嶼区）に標本の産地をプロットしてある。実際には凹凸や幅のある境界線を単純化して示したため、境界線付近の標本産地では隣の区域にプロットされるもの（例：蔵王町曲竹、白石市福岡、越河）が生じた。その場合、便宜上、プロットを境界線上に移した。標本産地の正しい地域区分は解説文に示してある。

『宮城県植物誌』までの引用標本の産地は同付属 CD 中「2 宮城県野生植物目録 2017 引用標本リスト」に記してあり、各産地の地域区分は同「4 宮城県維管束植物標本採集地一覧」に示してある。
4. 分布プロットのデータとして引用した標本は、1883 年 5 月 13 日～2022 年 7 月 31 日の 140 年間に宮城県内で採集され、その数は約 11 万 9 千件（細谷 2023）に及ぶ。同一地点で採集した標本もあるので分布プロット数はこれより少ない。
5. 本分布図集には、蘚苔（コケ）植物 109 科 688 種類（含、種内分類群）、維管束植物 188 科 3486 種類（含、種内分類群）を収録した。種内分類群のうち亜種と変種については独立した分布図を示し、品種については母種の分布図の中に含めている。これらの学名・和名は宮城県野生植物目録編集チーム（2023）ほか一部新知見によった。
6. 標本産地の位置は 1965～2022 年の標本を「■」でプロットし、1883～1964 年の標本についてはグレーの「□」でプロットしてある。このプロットのサイズは約 1 km 四方のメッシュに相当する。

標本産地の緯度・経度の座標は、住所データについては Esri 社のジオコーディングツール（有償版）を使用して自動的に付加した。自然地名や施設名については国土地理院の地理院地図を使用して、対象の中心点の緯度・経度座標を取得した（細谷 2023）。

標本によっては、採集場所の表記が簡略（例：蔵王山、北上川、仙台市）で、生育環境を考慮しても緯度・経度の特定はできなかった。その場合、地名が示す中央部にプロットすることを原則とした。よって各プロットが示す精度は元となる標本ごとに異なっていることに留意されたい。

7. 宮城県絶滅危惧の分類群並びに宮城県 RL への収録を検討すべき分類群については、保全の観点から 5 kmメッシュで分布を表示した。「5 kmメッシュ」は G 空間情報センターのサイトからダウンロードした。このため、分布区域境界線領域では、標本産地が含まれるメッシュの中心部が隣の区域に存在するため、一見、正確な地域区分を反映していないように見えることがある。
8. ID 番号は『宮城県野生植物目録 2017 維管束植物 [電子版]』（宮城県植物誌編集委員会 2017）、『宮城県野生植物目録 2018 維管束植物 [電子版]』（宮城県植物誌編集委員会 2018）並びに『宮城県野生植物目録 2022 [電子版]』（宮城県野生植物目録編集チーム 2023, 本サイトにて公開）と共通である。維管束植物について、宮城県野生植物目録 2017 維管束植物 [電子版] 以降に追加した分類群はその連番としてあり、誤同定等で削除した分類群については欠番としてある。
9. 各分布図には、解説事項として「1. 標本分布」、「2. 潜在分布と生育地」、「3. 今後の課題」、「4. トピック」を簡潔に記載した。「津波浸水域」は、2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震による津波に浸水したことを意味する。

標本分布：各区の標本産地を市区町村名や自然地名で示した。維管束植物では標本点数が概ね 100 点以上あるものは多数と表現したが蘚苔（コケ）植物ではその限りではない。標本点数が少ないものなどは採集年代を付した。普通種でも最古標本が 100 年以上前のものは採集年を記載した。外来種はすべて初採集年を記した。

潜在分布と生育地：観察を含めて想定される県内の生育地を記した。自然分布域を超えて、人為的にもたらされた分類群については全て「外来種」とした。宮城県野生植物目録 2022 [電子版]（宮城県野生植物目録編集チーム 2023）では「W (Wild): 自生, N (Naturalized): 帰化, 逸出を E (Escaped): 逸出。」と分けたが、宮城県での野生化の過程が不明で逸出か帰化かが疑問の分類群も複数あることから、外来生物法の用語集（環境省）の定義に基づいて「外来種」を使用した。

また、維管束植物については、加藤・海老原（2011）に収録されている分類群について「日本固有種」と記した。宮城県絶滅危惧植物に指定されている分類群は、そのランクを宮城県 RL2023 カテゴリー（宮城県 2023）に基づき略号（EX:絶滅, EW:野生絶滅, CR+EN:絶滅危惧 I 類, VU:絶滅危惧 II 類, NT:準絶滅危惧, DD:情報不足, 要：要注目種）で示し詳細な解説を避けた。

今後の課題：潜在分布に比し標本数が少ないもの、近年の標本を欠く場合の調査の必要性や分類群の特性に応じた分布動向の注目点、分類学的な問題点などについて記した。

トピック：食用、薬用などでの利用、観察、識別におけるポイントの他、研究者・会員が発表した文献情報等も記してある。宮城県をタイプ標本の採集地とする分類群については『宮城県野生植物目録 2022』（宮城県野生植物目録編集チーム 2022）を参照いただきたい。

10. 本分布図集の編集は下記の分担で進めた。

分布図の作成は全て細谷治夫が担当した（細谷 2023）。

蘚苔（コケ）植物の解説文は、蘚類を横山正弘が、ツノゴケ類及び苔類を加藤啓子が分担して原案を作成し、横山が全体の文体の統一、内容の整理等全般について補充、修正を行ったのち、大越秀樹の校正等を経て、担当者 2 人で最終的な編集を行った。

維管束植物の解説文は下記の会員が分担して原案を作成し、浅井元朗が内容全般について補充、修正を施し一次編集を行った。その後、担当者に戻され修正の後、滝口政彦が主に絶滅危惧種の記述を吟味、

修正し、上野雄規が統括して全体の文体の統一、内容の整理、校正等の二次編集を行った。

浅井元朗，市ノ渡彰，上野雄規，大越秀樹，加藤啓子，菅野壽代，齊藤賢治，坂井尚子，境秀紀，菅野登志子，杉山多喜子，高橋和吉，滝口政彦，丹野夕輝，林佳貴，細谷治夫，三島木進，八巻克己，横山正弘

分布図の修正と補作，分布図と解説文の合成及び Web 編集については横山拓郎が担当し，上記会員による点検の後，上野，大越らが中心になって再度校正を施した。さらに公開前の最終的な点検を菅野洋氏に進めていただいた。

2021 年までの連絡調整は上野が，2022 年以降の連絡調整並びに統括は境秀紀が務めた。

11. 分布図の検索方法は 2 つある。1 つ目の方法は index のページで目的の分類群（種以下）の和名の頭文字をクリックする。移ったページの左側のフレームから和名をクリックすれば分布図が閲覧できる。2 つ目は，Excel ファイル「ハイパーリンク付き目録 2022 [電子版]」を入手して，和名をクリックする方法である。配列は目録で採用している分類順となっており，Excel ファイルなので検索やフィルター機能が使え，自分で加工もできる。「ハイパーリンク付き目録 2022 [電子版]」は宮城植物の会会員の希望者に無償で配布する。
12. 解説文中の引用文献の出典については、『宮城県植物誌 III. 宮城県の植物関連資料 2. 宮城県植物関連主要文献目録』（杉山他 2017）及び『宮城県野生植物目録 2022』（宮城県野生植物目録編集チーム 2022），『宮城県野生植物目録 2022 補遺』（上野他 2023）の引用文献を参照されたい。さらに追加された文献については文末に記す。引用文献の配列は英文にあってはアルファベット順に，和文にあっては五十音順にした。

謝 辞

本分布図の公開に際し，宮城県内の自然環境の調査を重ねられ，協力いただいている菅野洋氏に点検，校正をお願いしました。植物生態学的観点から様々なご助言をいただき，深謝申し上げます

最後に，標本・図書の閲覧などでお世話になった東北大学植物標本室（TUS, TUSG）並びに仙台市野草園標本室（SWG）のキュレーターと関係者を始め，標本の収集，整理，調査にご協力いただいた方々，そして創立以来 50 年の間に宮城植物の会の会員として共に歩んできたみな様に深く感謝申し上げます。

引用文献（凡例分）

G 空間情報センター．生物多様性センター/メッシュ/5 kmメッシュ（約 5 km四方）

<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/biodic-mesh/resource/d9e78516-6ba5-4863-bfcd-31326f8984db>

2022 年 11 月閲覧

上野雄規・横山正弘・千葉道徳・境秀紀．2023．宮城県野生植物目録 2022 補遺．宮城の植物（48）：7-17．

加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物（国立科学博物館叢書 11）．東海大学出版会．秦野．

環境省．日本の外来種対策 外来生物法 用語集

<https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/yougo.html> 2023 年 5 月閲覧

杉山多喜子・堀内洋・上野雄規．2017．III．宮城県の植物関連資料 2．宮城県植物関連主要文献目録．*In* 宮城県植物誌編集委員会（編）：宮城県植物誌 263-287．

細谷治夫．2023．宮城県維管束植物分布図の作図について．宮城の植物（48）：34-36．

宮城県. 2023. 宮城県レッドリスト 2023 年版の公表について

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/red-index.html> 2023 年 5 月閲覧.

宮城県植物誌編集委員会 (編). 2017. 宮城県植物誌. 宮城植物の会. 大崎.

宮城県植物誌編集委員会 (編). 2017. 宮城県野生植物目録 2017 維管束植物 [電子版]. 宮城植物の会. 大崎.

宮城県植物誌編集委員会 (編). 2018. 宮城県野生植物目録 2018 維管束植物 [電子版]. 宮城植物の会. 仙台.

宮城県野生植物目録編集チーム (編). 2022. 宮城県野生植物目録 2022. 宮城植物の会. 仙台.

宮城県野生植物目録編集チーム (編). 2023. 宮城県野生植物目録 2022 [電子版]. 宮城植物の会. 仙台.

元世話係. 2021. 宮城県植物誌分布図編 作成活動の歩み. 宮城の植物 (46) : 90-91.

引用文献 (解説文追加分)

Haga N., Kobayashi M., Michiki N., Takano T., Baba F., Kobayashi K., Ohyanagi H., Ohgane J., Yano K. and Yamane K. 2019. Complete chloroplast genome sequence and phylogenetic analysis of wasabi (*Eutrema japonicum*) and its relatives. Scientific Reports 10.1038/s41598-019-49667-z

Horikawa. Y. 1929. Studies on the Hepaticae of Japan. II. Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ. Ser. 4, Biol.4 : 395-427.

Oda J., Fuse S., Yamashita J. and Tamura M. N. 2019. Phylogeny and Taxonomy of *Carex* (Cyperaceae) in Japan I. *C. sect. Rarae*. Acta Phytotax. Geobot. 70 : 69-85.

Suzuki S. 1961. Ecology of the Bambusaceous genera *Sasa* and *Sasamorpha* in the Kanto and Tohoku districts of Japan, with special reference to their geographical distribution. Ecol. Rev. 15 : 131-147.

Takahashi K., Oda J., Fuse S. and Tamura M. N. 2021. Biosystematic Studies of *Carex* (Cyperaceae) I. Molecular Phylogenetic Analysis of the *C. macroglossa* Complex with Reference to Variation in Morphology, Chromosomal Features and Species Delimitation. Acta Phytotax. Geobot. 72 : 81-92

阿部裕紀子・藤原陸夫. 2012. 北東北植物分布図 -セリ目植物-. 秋田県立博物館研究報告 (37) : 1-30.

阿部功之. 2019. ホンゴウソウを仙台平野の丘陵地帯で確認. 東北植物研究 (21) : 29-32.

植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹. 2010. 日本帰化植物写真図鑑 第 2 巻. 全国農村教育協会. 東京.

上野めぐ・若松伸彦・菊池多賀夫. 2008. 宮城県釜房湖西岸のリュウキンカ生育地における植物群落とその立地. 宮城の植物 (33) : 27-37.

上野雄規. 1987. 登米郡にミドリヒメワラビを産す. 宮城の植物 (13) : 38.

上野雄規・薄葉満・葛西英明. 2018. 宮城県栗原市金成におけるオオタヌキモの分布及び生育地の現状. 宮城の植物 (43) : 22-28.

上野雄規. 2023 a. ハマヒナノウスツボの研究史. 宮城の植物 (48) : 1-6.

上野雄規. 2023 b. 宮城県産維管束植物のタイプ標本 5 ケスズダケ・ナトリアザミ. 宮城の植物 (48) : 37-38.

大友敬雄. 1978. センダイトウヒレンについて. 宮城の植物 (5・6) : 44-45.

加藤辰己. 1977. 東北地方におけるオタカラコウとトウゲブキの分布について. 植物研究雑誌 62 : 28-30.

菅野邦夫. 2018. 宮城のタカサゴユリ. 宮城の植物 (43) : 46.

木村紗重子・長橋美智子・長橋広幸. 2022. 宮城県仙台市でイチヨウランを確認. 宮城の植物 (47) : 13.

木村中外. 2008. イチイ (*Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc.). 宮城の植物 (33) : 61-62.

木村中外. 2009. フユノハナワラビ (*Botrychium ternatum* Sw.). 宮城の植物 (34) : 32.

木村中外・小川茂. 1983. セキシヨウモ (*Vallisneria natans* (Lour.) Hara) の雄花花被片細胞にみられる赤色顆粒について. 宮城の植物 (10) : 口絵, 1.

- 熊耳久雄. 1976. レンゲシヨウマ雑記. 宮城の植物 (4): 26-28.
- 黒沢高秀・庄子邦光. 1994. ヤマクボスゲの分布. 植物研究雑誌 69: 327-329.
- 国立環境研究所侵入生物研究チーム. 侵入生物データベース. <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>
- 小水内長太郎・三浦徳蔵. 1989. リュウノウギクの分布等追跡. 岩手植物の会会報 (26): 23-26.
- 齋藤清. 1973. 宮城県におけるトキリマメの産地について. 宮城の植物 (1): 34.
- 齋藤清・岡崎弘. 1973. 宮城県におけるトケンランの産地について. 宮城の植物 (1): 34.
- 佐々木豊. 2021. 宮城県迫川水系におけるハナムグラの分布と生態. 宮城の植物 (46): 41-57.
- 下山祐樹. 2018. 東日本大震災後に東松島市の砂浜海岸で記録したハマナス群落. 宮城の植物 (43): 9-11.
- 杉山多喜子. 2019. 名取市増田川親水公園の階段に群生しているハマヒルガオ. 宮城の植物 (44): 46.
- 鈴木和次郎・菊地 賢. 2006. 只見川水系における絶滅危惧種ユビソヤナギの分布と河畔林の組成・構造. 保全生態学研究 11: 85-93.
- 鈴木貞雄. 1978. 日本タケ科植物総目録. 学習研究社. 東京.
- 鈴木由告. 1986. 多摩川中流域におけるカタクリ群落の分布と生態及び保護育成に関する研究. とうきゅう環境浄化財団研究助成 助成集報 13 (2) 128pp.
- 高橋雄一. 1978. ヤブレガサの花粉媒介こん虫. 宮城の植物 (5・6): 22-23.
- 高橋和吉. 1974. 県内初発見 ヒゴスミレ. 宮城の植物 (2): 30.
- 滝口政彦. 2000. 斗蔵山のモミの年輪について. 宮城の植物 (24・25): 1-6.
- 滝口政彦. 2018. グリーンピア岩沼のミヤマクマザサ. 宮城の植物 (43): 44-45.
- 滝口政彦・市ノ渡彰. 2022. ムラサキセンブリ (リンドウ科) 絶滅記. 宮城の植物 (47): 14-15.
- 滝口政彦・杉山多喜子. 2020. ハマナス (バラ科) の虫こぶとハマナスの分布. 宮城の植物 (45): 11-13.
- 滝田謙讓. 2001. 北海道植物図譜. 自刊. 釧路.
- 内藤俊彦. 1992. ツクバネソウ (*Paris tetraphylla* A. Gray) の地下茎について. 宮城の植物 (17): 37-38.
- 内藤俊彦. 2009. カタバミ種子の散布. 宮城の植物 (34): 26-30.
- 内藤俊彦. 2014. 金華山金光水のカヤ種子. 宮城の植物 (39): 13-14.
- 鳴橋直弘・梅本康二・若杉孝生. 2000. オオユリワサビ, その生活と分類学的位置. 植物地理・分類学研究 48: 141-148.
- 福島県植物誌編さん委員会(編). 1987. 福島県植物誌. 福島県植物誌編さん委員会. いわき.
- 藤原陸夫・阿部裕紀子. 2017. 北東北維管束植物分布図. 秋田植生研究会. 湯沢.
- 細井幸兵衛. 1999. 北本州植物分布資料 (17) ウスイロスゲ: 東北植物研究 (10): 22.
- 松井透・井村智. 1993. ナガミゴケ (キンシゴケ科, 蘚類) 東北地方で見つかる. 日本蘚苔類学会報 6: 34-36.
- 森俊. 1989. 北本州植物分布資料 (10) チョウセンキンミズヒキ. 東北植物研究 (6): 6.
- 森俊・滝口政彦. 2007. ハイイヌガヤの新産地について. 宮城の植物 (32): 41-42.
- 矢野興一・池田 博. 2021. 北海道で採集されたカヤツリグサ科ノグサ. 莎草研究 (23): 19-28.
- 山崎敬. 1989. 日本におけるヨロイグサ, エゾノヨロイグサ, シシウドについて. 植物研究雑誌 64: 85-94.
- 米倉浩司. 2003. オオユリワサビ (アブラナ科) の北限産地. 植物研究雑誌 78: 356-358.

公開日 2024年4月27日

編集者 宮城県野生植物分布図集編集委員会 (2017~2024年)

発行者 宮城植物の会